

防災対策推進検討会議

南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 今後の検討の進め方について

○二つのレベルの津波

- ①発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波
⇒ 住民避難を柱とした総合的防災対策
- ②発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波
⇒ 防波堤など構造物によって津波の内陸への浸入を防ぐ

○南海トラフ巨大地震の特徴

- ・ 広範囲での巨大な津波高
- ・ 津波の到達時間が数分と短い地域が存在
- ・ 都市の形成や地形において異なる地域が対象
(大都市、中小都市、平野部、リアス式海岸等)
- ・ 広範囲での強い揺れ

南海トラフ巨大地震対策
検討WG設置
(H24年4月20日第1回会合)

人的・物的被害の推計
(H24年6月頃)

当面実施すべき対策の
とりまとめ
(H24年夏頃)

経済被害等の推計
(H24年秋頃)

月に1～2回程度開催

対策の全体像のとりまとめ(冬頃)

■主な検討項目

- 確実な情報伝達体制
- 津波からできるだけ短時間で円滑に避難できる方策(5分で避難)
- 長期的視野に立ったまちづくり
(高台移転方策など)
- 揺れの被害を軽減するための対策
- 防災意識の向上
(防災教育・避難訓練の充実)
- 施設整備方針の具体化
- 広域応援体制の検討
- 国による支援方策
(法的枠組みを含む) 等

※津波避難に関わる項目については
津波避難対策検討ワーキングと連携